

GAS BURNER

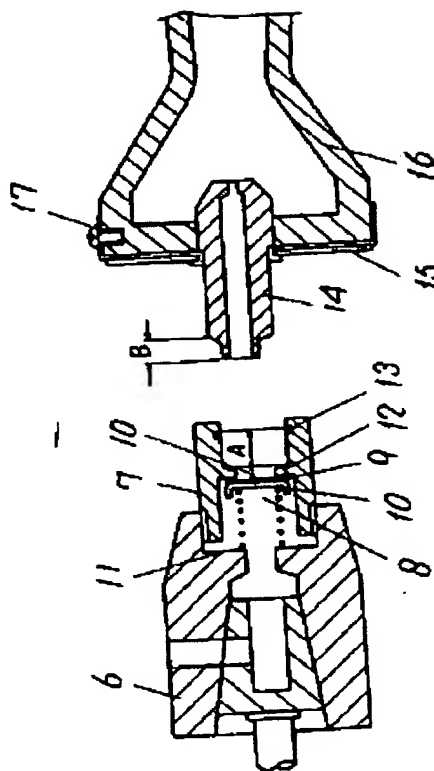
Publication number: JP59024112
Publication date: 1984-02-07
Inventor: INOUE SHIYOUJIROU; ISHIBASHI NOBORU
Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD
Classification:
- **International:** F23D14/64; F23D14/46; (IPC1-7): F23D13/40
- **European:** F23D14/64
Application number: JP19820133425 19820729
Priority number(s): JP19820133425 19820729

Report a data error here

Abstract of JP59024112

PURPOSE: To enable either a right or a left burner by preference of a user to work as a high calorie burner, by a method wherein an on-off valve, mounted within a gas nozzle support, is designed to have a size relation, between a nozzle support seal part and a gas nozzle, in that the on-off valve is not opened until the gas nozzle is sealed.

CONSTITUTION: When a burner 16 is disconnected from a gas cock 6 side, since a gas nozzle 14 is secured to a damper 15, the nozzle is disconnected simultaneously, an on-off valve 8, sized to be the width of a nozzle support 7, is brought to a closing state to prevent leakage of gas. Since the size of a part B of the gas nozzle 14 is shorter than that of a part A of the nozzle support 7, the on-off valve 8 is brought to an opening state only while there is a size in that the gas nozzle 14 can be sealed by a seal rubber 13, and the on-off valve 8 is closed when the gas nozzle is brought to a condition in that it parts from the seal rubber 13. The amount of gas consumed is determined by the gas nozzle 14, it is necessary that the burner 16 and the damper 15 match the amount of gas consumed, and they are integrally mounted and demounted, whereby mutual discordance is prevented from occurring.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—24112

⑤ Int. Cl.³
F 23 D 13/40

識別記号

庁内整理番号
A 6448—3K

④ 公開 昭和59年(1984)2月7日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ ガス燃焼器

① 特 願 昭57—133425

② 出 願 昭57(1982)7月29日

⑦ 発 明 者 井上象二郎
門真市大字門真1006番地松下電
器産業株式会社内

⑦ 発 明 者 石橋昇

門真市大字門真1006番地松下電
器産業株式会社内

① 出 願 人 松下電器産業株式会社
門真市大字門真1006番地

⑧ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

ガス燃焼器

2. 特許請求の範囲

(1) ダンパーとガスノズルとがバーナに固定又は一体化され、前記ガスノズルがガスコックの下流側に設けたノズル受けと嵌合し、前記ノズル受け内に設けられた開閉弁は前記ノズル受けシール部と前記ガスノズルとの間でシールされるまで、前記開閉弁が開かない寸法関係にあるガス燃焼器。

(2) ノズル受け内の開閉弁の開閉はガスノズルのノズル受け内への挿入により行う特許請求の範囲第1項のガス燃焼器。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明はガステーブルにおける左右のガスコンロのガス消費量及びバーナを容易に左右入替え可能とするガス燃焼器に関するものである。

従来例の構成とその問題点

一般に二口以上のガスコンロからなるガステーブルと言われるものは、左右の二つのガスコンロのガス消費量が異なる場合が多い。従って製造時に右又は左のガスコンロ部のガス消費量を予め決めて製造されている。そのためメーカーにより例えば右側ガスコンロが2800 Kcal/hで左側ガスコンロは2000 Kcal/hというように慣習的に定められている。しかし、一般家庭にあってはガステーブルを置く場所が左側に壁があったり、右側に壁があったりし、大カロリー側ガスコンロが壁側にある場合は大きな鍋を使用する時、鍋が壁に当り調理の邪魔になったり壁が高温になりやすく火災の危険等がある。又使用者の好みで、大カロリーガスコンロは左右のどちら側がよいか決められる。そのためガステーブルを購入する場合、消費者は好みのメーカー品に大カロリーのガスコンロのある側が好みと違ふことがしばしばある。従ってメーカーが消費者の要望を満たすには、左又は右側に大カロリーのある2種類のガステーブルを用意しなくてはならない。LPGをはじめ都

市ガス各種に対応するだけでも機種が多い上に、左右2種の大カロリー・ガステーブルを作ることは機種が倍に増加し経済的無駄となるので実際は大カロリーのコンロのある側は決めて1種類にしている。従って、消費者の要望を満たすため改造変更することがあり、手間が大変である。即ち従来品の改造のためには第1図に見る如くガスコック1にガスノズル2がネジ部3で螺着され、そのガスノズル2にダンバー4及びバーナ5(一部分のみの図)が挿入されている構造のものを、まずコック1に螺着されているノズル2からバーナ5とダンバー4を外し、しかる後にガスコック1のネジ部3に螺着されているガスノズル2を外し、反対側の前述の同類のガスノズル、バーナ、ダンバーの各部品と交換する必要がある。

前述のガスコック1とガスノズル2との螺着の際ガス漏れがないようにガス漏れ防止シール剤(図示せず)がネジ部3に用いられるが、本改造は専門家によって行いガス漏れの有無の検査する必要がある。

ルゴム13がありガスノズル14もシールする。ガスノズル14はダンバー15にかしめられ、ダンバー15はバーナ16(一部分のみの図)にネジ17で固定されている。第3図はバーナ16にダンバー15が固定され更にダンバー15と固着化されたガスノズル14がノズル受け7と離脱した状態を示し、開閉弁8が閉の状態になっている。又ノズル受け7のA部寸法とガスノズル14のB部寸法とは $A > B$ ($B = C + D$ であり従って $A > C$)の寸法関係にある。本発明は以上のような構成であるので、一般のガステーブルを消費者が時々バーナ5をガスノズル2から外して掃除し、再度ガスノズル2に挿入する要領で、本発明のバーナ16をガスコック6側から外すと、ガスノズル14はダンバー15に固着されているので同時に外れ第3図の状態になる。たまたま第3図ではガスコック6は開の状態の図になっているが、ノズル受け7巾の開閉弁8は閉となり、ガスが漏れないようになっている。ガスノズル14のB部及びC部はノズル受け7のA部寸法より小さいので、

発明の目的

この発明の目的はたとえば二口のカステーブルにおいて、左右のバーナカロリーが異なる場合、使用者の好みに応じて左右いずれかのバーナを大カロリーのバーナに容易にできることを目的とする。

発明の構成

この発明の構成は、ダンバーとガスノズルとがバーナに固定又は一体化され、前記ガスノズルがガスコックの下流側に設けたノズル受けと嵌合するものにおいて、ガスノズル受け内に設けられた開閉弁は前記ノズル受けシール部と前記ガスノズルとの間でシールされるまで前記開閉弁が開かない寸法関係にあるガス燃焼器である。

実施例の説明

以下本発明の一実施例を説明する。第2図は本発明の構成を示し、ガスコック6にノズル受け7が螺着されノズル受け7の中に開閉弁8があり弁ゴム9、弁ゴム受金具10、弁スプリング11と弁座12があり、ノズル受け7の入口近くにシ-

ガスノズル14がノズル受け3のシールゴム13でシールし得る寸法の間のみ開閉弁8を開とし、ガスノズル14がノズル受け7のシールゴム13より離れる状態になると前述の第3図の如く開閉弁8が閉となる。又シールゴム13は弗素ゴムの如き耐熱性と滑りのよいゴムを使用しているのでシール性及び耐久性が優れている。ガスノズル14とダンバー15とバーナ16とが一体化しているのでガス消費量を決定する因子を有する部分即ちガス消費量はガスノズル14で定まりバーナ16とダンバー15はガス消費量に合せる必要がありそれらは一体となって取外し取付けを行うので、バーナ16とガスノズル14及びダンバー15との相互の不一致が起ることがない。従ってもし誤ってバーナ16を取外し前後と左右間違えて取付けたとしてもガスノズル14、ダンバー15、バーナ16が一緒なのでガスの不安全な燃焼を起すことなく常に安全燃焼の組合せの部品の組合せを保つことができるものである。左右のバーナ16の取替えは一般の市販の安全ガスソケ

ットの着脱と同様に消費者が容易かつ安全にできるものである。

発明の効果

以上の如く本発明はガステーブルにおいて大カロリーバーナと標準バーナ、例えば2800 Kcal/hと2000 Kcal/hの各バーナはダンパーと共にバーナに固定されたノズルをガスコックに連結されたノズル受けに挿入することによりノズル受けとノズルはシールされ、次で開閉弁が開となるもので、ノズル、ダンパー及びバーナは一体化されているので左右どちらへついてもバーナとノズルやダンパーとの異和性はなく正常な燃焼が約束される。開閉弁の開閉は別部品を用いるのではなく、燃焼に必要なノズルにより行うと共に、ノズルの一部寸法関係を利用し、ノズル受けとノズルとのシールを完了後、開閉弁を開くようにしている。従って十分ノズル受けにノズルが挿入れないときは開閉弁を開かない構造を有するもので、安全性を十分考慮してある。

従って消費者が自由にバーナを左右交換したり

掃除も十分でき、メーカーは左右2種の大カロリーバーナつきの器具を作ることなく大変経済的なガス燃焼器を得ることができる。

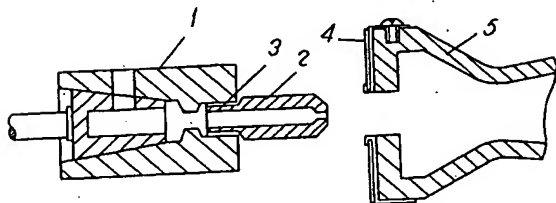
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来例の断面図、第2図、第3図はそれぞれ本発明の一実施例のガス燃焼器の断面図である。

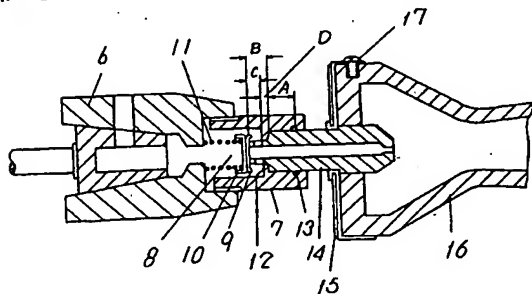
6……ガスコック、7……ノズル受け、8……開閉弁、14……ノズル、15……ダンパー、16……バーナ。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

第 1 図



第 2 図



第 3 図

